

【新体制スタート 座談会】

課題解決力強化へ「価値」向上
(2~3面)

新役員と主要活動紹介 (4面)

都 中 建

一般社団法人 東京都中小建設業協会

発行人 山口 巖 編集人 渡邊 裕之

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-10-7

TOMビル5階

電話 03(3356)7711(代) F A X 03(3354)7271

http://www.tochuken.or.jp/

新しい時代に対応した中小建設業団体

日本には、ギルド(同業者組合)もユニオン(労働組合)もない。しかし、建設業の団体は数え切れないほどある。それは元請になるケースもあれば、大きくは、元請の団体と専門工事業の団体に分けられる。しかし、法人等の組織を会員とし、その代表者は経営者と専門工事業、企業と労働組合などの対立関係があるように捉えられてきた。労働組合という名称の団体も存在するが、実際には構成員の多くは事業主であり、同種の団体と言えなくもない。そもそも、総合工事会社で困ることもない。しかし、

何もしないで存在感が薄くなるから主張はする。ただし、波風を立てる必要もないので、当たり障りのない主張にとどめるのがベターである。従来の建設業団体の主張は、そんな風だったように思える。

例えば、職人の問題であれば、職人の地位向上、芝浦工業大学

芝浦工業大学

教授 蟹澤 宏剛

シリーズ 中小の進路を開く 特別寄稿②



職人の社員化(雇用化)、専属下請であるものを社員と称しているものを見ることがある。真面目に紀以上も前から良く耳にしたスローガンであるが、事は何も進まなかった。何故そうなるのかというところ、こうしたスローガンには、誰が何をすべきかといった具体性が全くないこと、文言が多義的で解釈の余地が多岐にわたること、目標像がぼやけたらば、正直行がバカを見てきたのが、バブル崩壊以降、原因であろう。また、スロ

19年前からと言われている、様々な対策を打ち、平成26年ころから若年層の事者は3分の1減少する予想されています。建設産業の未来に大きな不安があります。そこで、国も都も業界も一体とな

格業者」と定義すること。当初、社会保険に加入し、技能者が保険に加入するわけがないなど、業界全体に覆い尽くされてきた。しかし、設計労務単位の大幅な見直し、担い手3法の改正などの様々な具

述べるように、日本には、ギルド(同業者組合)もユニオン(労働組合)もない。しかし、よく考

い手確保については、専門学校との協働で独自の合同企業説明会を開催したほか、建設業振興基金による産業担い手確保・育成コンソーシアムの開始を検討するなど、さらに担い手確保対策事業を強化していく」と述べた。

山口新会長「写真は、今後都建のますますの発展と、会員各企業の発展のために微力ながら力を尽くしたい。ぜひご協力をお願いしたい」と挨拶した。

担い手確保と生産性向上

一般社団法人 東京都中小建設業協会

会長 山口 巖



建設産業の未来に大きな不安があります。そこで、国も都も業界も一体とな

一億総活躍で対応すると同時に、事業の生産性向上が道はあります。中小企業にとっては、かなり難しい事です。都建としても、特別な委員会を設置し検討を開始いたしました。各位、積極的にご参加ください。

平成28年度運動方針
スローガン

中小の進路を開く都中建

1. 若年・女性技術者・技能者の入職と定着
2. 発注の平準化及び工期の適正化
3. 建設業の生産性の向上
4. 防災対策の強化

新会長に
山口副会長

第44回通常総会

都 中 建



東京都中小建設業協会(豊田剛会長)は5月23日、東京・千代田区のKKRホテル東京で第44回通常総会を開催。任期満了に伴う役員改選も行われ、新会長に山口巖副会長を選出、渡邊裕之・鳥越雅人両副会長が再任し、新副会長に渡辺健司会計理事、細沼順人理事、森榮理事が選出された。

冒頭、挨拶に立った豊田会長は「品確法の指針が施行されてから、様々な改革が実施されてきた。今年の夏には業界に脱する必要がある。皆様の具体的なアクションに期待したい。」と述べた。